

林寺小学校跡地活用事業者説明会概要

❖ 開催概要

開催日時 令和5年3月5日（日） 14時～15時30分

場 所 もと林寺小学校 多目的室

1. 代表取締役社長挨拶
2. 事業者紹介・アブロードインターナショナルスクールについて
3. 提案内容の紹介
4. 地域連携アドバイザー挨拶
5. 質疑応答・ご意見
6. 林寺まちづくり協議会理事長挨拶

❖ 内容概要

2. 事業者紹介・アブロードインターナショナルスクールについて

- ・2006年に四ツ橋駅近くのビジネスビルで、英語で教育する幼稚部として始まり、2012年から小学校、2018年から中学校と拡大。
- ・約15か国から200名程度の生徒が集まっており、現在は5割が日本人である。
- ・国際的な教育をするため「国際バカロレア」のカリキュラムを採用している。

3. 提案内容の紹介

- ・町内会のメンバーとして、地域コミュニティを形成していく。多文化共生社会を作り、様々な文化を持つ人たちが新しいものを作り出す創発の場所にしたい。それにより、林寺地区の活性化に繋げ、地域と学校がともに発展するような、Win-Winの関係を構築できるように努めたい。この考え方をベースに、林寺小学校跡地計画にある、防災拠点としての機能や地域コミュニティ機能、エリアへの波及についても考えた。
- ・まず、地域での役割と貢献では、従来通り地域の防災拠点機能を果たす。地域活動や地域コミュニティの維持、活性化にも貢献したい。我々のイベント等では、地域の方にもご参加いただけるよう、また地域のイベントに協力し、お互いに協力し合いたい。
- ・次に、エリアへの波及効果の面では、通学希望の生徒、子育て世代が周辺に引っ越してくることが期待できる。また、オールイングリッシュでの授業やスポーツ、地域の小・中学校との連携など、新たな学びの機会を作りたい。
- ・大阪市への貢献では、大阪都市魅力創造戦略であげられている、グローバル人材の育成、多様性都市の実現に協力することで、大阪の都市の魅力や競争力を高めることに繋がると考えている。
- ・最終的には、学校に集まった世界様々な地域の人が、生野区や大阪市の文化や魅力を知り、生まれた国に戻ることで、平和と交流の懸け橋になることを目指していきたい、そんな事業展開を心がけていきたい。

5. 質疑応答・ご意見

Q. インターナショナルスクールは、文部科学省認定の学校か。卒業したら、義務教育を終えたことになるのか。高等部までやるということだが、高校卒業資格は与えられるのか。

A. インターナショナルスクールは様々な形がある。アブロードは、文部科学省の学習指導要領に沿ったカリキュラムではなく、国際バカロレア*1に基づくカリキュラムを採用している。国際バカロレア卒業資格を取得すれば、国際的な大学入学資格が与えられ、世界の色々な大学に、大学検定のような試験なしで入学試験を受験出来る。ただし、どの大学でも受験できるわけではなく、国際バカロレアのスコアを活用した入試制度がある大学。*2 なお、幼稚部は、認可外保育施設として登録されている。

*1 国際バカロレア IB とは <https://ibconsortium.mext.go.jp/about-ib/>

*2 国際バカロレアを活用した入試制度について <https://ibconsortium.mext.go.jp/ib-japan/admissions-policy/>

Q. 公立の学校に通っている林寺地域のこどもたちと交流する機会は考えているのか。

A. ぜひやっていきたいと考えている。私（校長）は、以前、他のインターナショナルスクールでも校長をやっていた。その経験やノウハウも活かしていきたい。例えば、アブロードのクラブ活動に、地域のこどもたちも参加できるようにしたり、学校行事の際に来てもらったり、逆に保護者やこどもたちが地域の活動に参加したりしたいと考えている。

Q. 林寺小学校の時、日常的なコミュニケーションがあったなかでも、災害時には混乱した。インターナショナルスクールになり、防災拠点・避難所として機能するのか。

A. 災害時の対応については、「安全に関するハンドブック」を作り、区役所に提出している。また、学校としては、現在ビジネスビルに 200 人近くいるため、毎月地震、火事等様々なことを想定した訓練を実施している。災害時の避難について、区役所、連合町会とも細かく調整しており、今までどおり運用できるように進めている。

Q. こどもたちや保護者まで、地域の避難所であるという認識を共有しているのか。

A. これまで、こどもたちには 2 回、保護者には 4 回程度、林寺小学校跡地への引越しに関することや地域の方がどのように学校跡地を使っているか、地震など災害があった時、地域の方が避難するため学校として使えない場合があることなど、プレゼンテーションや文書で、英語と日本語で説明している。そのため、防災に関して、しっかり意識していると思う。

6. 林寺まちづくり協議会理事長挨拶

このたびは、株式会社バハールエデュケーション、アブロードインターナショナルスクールが、この林寺小学校の跡地の運営者となった。

本日は、地域の皆さんの色々な貴重なご意見、ご質問を、本当に自分も心の中に刻んで聞かせていただいた。しかし、将来のことに関しては、これまで地域連携アドバイザーとともに密に打ち合わせをしてきており、この姿勢はこれからも変わることなく継続していくつもりである。

地域の皆さんに一番ご認識いただきたいことは、林寺小学校が閉校するまでとバハールエデュケーションが運営者になったこれからも、地域にとってはなんら変わらない、デメリットはないということ。そのような形で運営者側と話を進めていきたい。